

「仲間と協力し、生徒が主体的に取り組める修学旅行を目指して」

愛知県名古屋市立南陽中学校

はじめに ~名古屋市立南陽中学校の概要~

1 学校の沿革

1947(昭和22)年に海部郡南陽村立南陽中学校として創立。翌1948(昭和23)年には校舎を移築した。その後、1949(昭和24)年の海部郡南陽町立南陽中学校への校名変更を経て、南陽町の名古屋市編入に伴い、1955(昭和30)年に名古屋市立南陽中学校となった。

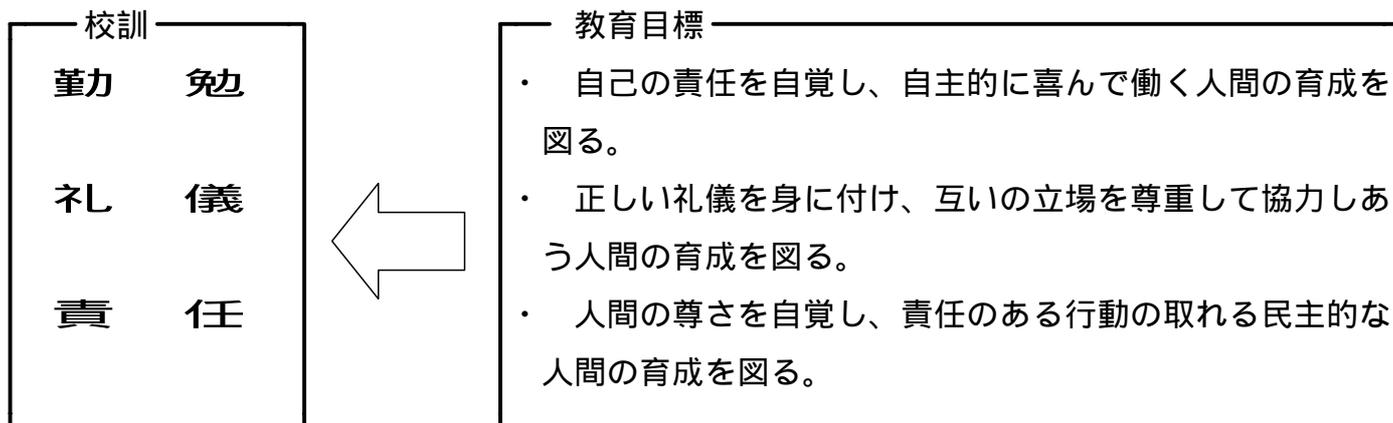
1969(昭和44)年に体育館兼講堂が竣工、翌1970(昭和45)年にプールが竣工、1981(昭和56)年の中校舎竣工を経て現在に至っている。

2 学校の現況

開校62年目を迎え、現在の学級数は20学級(特別支援学級1を含む)である。生徒数は男子346名、女子359名の計705名である。

3 教育目標

校訓を基盤に、心身共に健全で礼儀正しく、社会に貢献できる生徒を育成する。



4 本年度の学校努力目標

「自己のよさを発揮し、よりよく問題を解決できる生徒の育成

~望ましい生活習慣の確立と学習の基礎・基本の習得を目指して~」

- ・ 生徒に学校生活に必要な生活習慣を確立させ、学習面の基礎・基本を定着させる。さらに、個々の良さを発揮し、認め合う活動を増やすことにより、生徒は自信を深めることができ、自ら進んで活動できる力(生きる力)が育成できる。
- ・ 生徒一人一人にとって分かる授業、楽しい授業を目指し、個に応じた学習を進めることに重点をおき、指導法の工夫に取り組んでいる。また、生徒一人一人の良さを校内に限らず、校外でも、様々な場面を設定する中で自覚させ、生徒一人一人の良さを伸ばすことを目標として教育活動を展開している。

5 本校の修学旅行

平成19年度より関東方面への修学旅行となっている。

2009年度の実践

1 3年間を見通した修学旅行の位置づけ

本学年の「総合的な学習の時間」の流れ

生きる力を育てるために

「生きる」 あなたと私と地球が生きるために

体験

探求

環境学習

1
年

地球環境のことに目を向け、「環境」をテーマとした、調べ学習をする。調べた内容をレポートにまとめ、教室に張り出すことで知識を定着させ、他の環境問題についても考えることができるようにする。また、企業を訪問し、環境に対する取り組みについてインタビューする。

職場体験

2
年

職業について興味も持つために、身近な人へのインタビューからスタートした。職業についてのインタビューを新聞形式の記事にすることで、興味をもちやすくする。また、職場体験を通じて、働くことの大変さと大切さを知るとともに、社会の仕組みを知る。

社会規範・国際理解

3
年

自ら計画し、実行する力を育てる。修学旅行におけるルールを決めたり、班活動での学習内容を決めたりすることによって、主体的な力を身につける。
また、「生きることの幸せ」をテーマに、日本や日本以外の国の現状について学習することで、国際社会で生きる自分たちについて知る。

生きる力の育成

本学年では、総合的な学習の目標を「生きる」として、次のような目標を考えた。

自分の生きる道について考えるとともに、環境や社会のなかで「生きている」ということを実感し、よりよい生き方を考えること。

自ら考え、話し合うことで、主体的に判断し、問題解決する能力を育てることで、「生きる力」を養うこと。

そして、各学年のテーマとして、以下を設定した。

1 学年 = ～ わたしとあなたが生きるために ～

現在甚大な被害を引き起こしている大規模な自然災害の原因や今後の動向を学び、問題解決の糸口を考える。

2 学年 = ～ わたしとあなたが

社会で生きるために ～

身近な職業調べや、職場体験学習を通して自分の生き方について考えることができるようにする。

3 学年 = ～ わたしの生き方を見つけるために ～

自分でよりよい計画を立て、主体的に物事に取り組めるようにするとともに、国際社会で生きる自己を確認する。

こうしたテーマのもと、体験学習を中心とした活動の中で、自分で考え、企画・運営をすることで生きる力を育てる活動をしようと考えている。

修学旅行については、自分たちでテーマを考え、この行事を通してどのように成長できるか話し合う場としてとらえている。リーダーが必要なルールを決めたり、各実行委員が、活動内容を考えたりすることを通して、よりよい修学旅行にするために一丸となって活動できる。班別活動では、学習テーマを設定し、修学旅行後にクラスの生徒に向けて発表することで、学習内容を広く周知することができる。

2 修学旅行のねらい

- ・ 自分たちで話し合っって企画を立ったり、運営したりすることで、よりよい修学旅行になるように協力できる。
- ・ 日常生活では味わうことのできない体験や人々との交流を通して、見聞を広め、自然や文化などに親しむ。
- ・ ルールある集団生活を通して、集団の中での自己のあり方や公衆道徳などについての望ましい態度を育てる。
- ・ 学年、学級の仲間との和を深め、中学校生活の思い出づくりをする。

3 計画立案に当たっての基本的な考え方（学年会より）

- (1) 修学旅行での体験を通して、学校生活では経験できないようなものの見方や考え方に触れさせる。
- (2) リーダーが中心となって、中学生としてのルールやテーマを決め、望ましい集団生活のあり方を考えさせる。
- (3) 各場面における活動で実行委員を募集し、自分の適性に合った場面で個性に応じた創造力を発揮し、主体的な企画を立てさせる。
- (4) 分散学習の発表に向けて、各班ごとの係の仕事を班員と協力しながらこなすことによって、責任感を育てる。

4 日程について

1日目 6月9日・火

名古屋駅集合	名古屋	(新幹線 のぞみ218号)	東京
8:30	9:38	11:20	12:00
《東京都内分散学習》	《東京ディズニーリゾート：班別研修》		(徒歩)
	15:30 夕食	21:00	
ホテルオークラ東京ベイ(泊)			
21:15			

2日目 6月10日・水

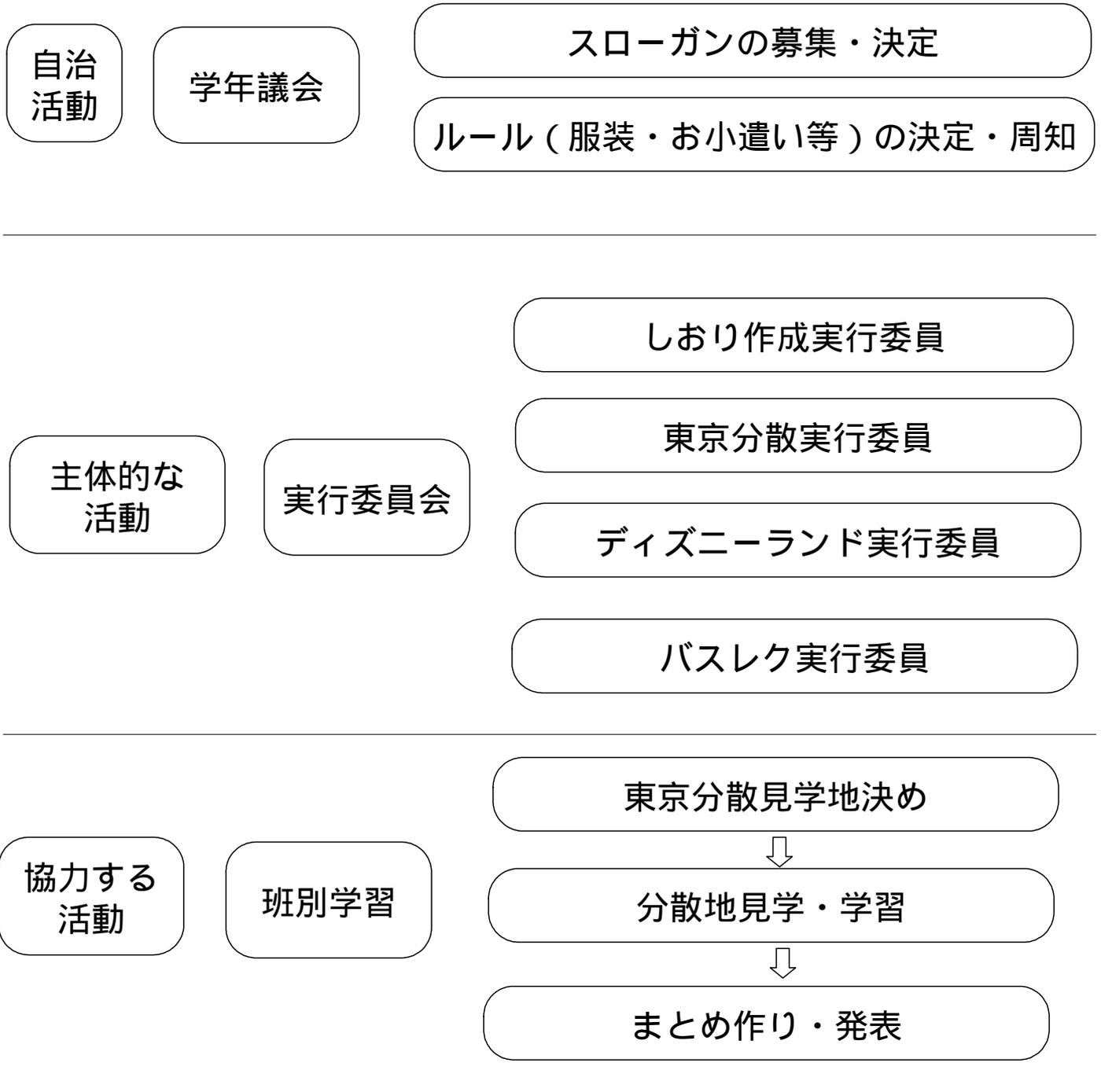
ホテルオークラ東京ベイ	(バス)	《国会議事堂》	(バス)
8:10		9:00	10:30 11:00
《浅草：班別研修》	(水上バス)	日の出棧橋駅	(バス：バスレク含)
昼食	13:00	14:10	14:20
伊豆ペンション(クラス男女別分宿)			
17:30			

3日目 6月11日・木

伊豆ペンション	(バス)	《旅の駅 ぐらんぱるぽーと》	(バス)
7:30	8:15	8:45	
《伊豆高原体験学習：希望別》	(バス)	《伊豆シャボテン公園》	
9:00	11:00	12:00	昼食 12:45
(バス：バスレク含)	学校		
13:00	17:45		

5 ねらいを実現させるための具体的な取り組み

(1) 学年議会・実行委員会の取り組み



(2) 学年議会の取り組み

各クラスの代表者（議員）で構成される学年議会で、修学旅行の中心的な内容を決める。代表者がスローガンやルールを決めることで、集団生活で守るべき内容を生徒自身が把握しやすくなると考えた。

スローガン作り

修学旅行のねらいをわかりやすく示すものとして、スローガンを決めることにした。その際に、学年の生徒に修学旅行のねらいを周知し、スローガンを募集することとした。それによって、ねらいの内容を浸透させることができ、自分たちで決めたスローガンに向か

って協力できるようにした。選ばれたスローガンは、次のものである。

2009 修学旅行スローガン

笑時間 ~ Show Time ~

3年6組 Hさん作

このスローガンには、みんなで協力して修学旅行を過ごすことで、楽しい時間を共有することができる。みんなで笑って、一生の思い出になるような「Show Time」になるようにという気持ちが込められている。

このスローガンは、学年の廊下にポスターを作って掲示された。また、学年集会で作成者を表彰した。

ルール作り

望ましい集団生活を送る上で、修学旅行にふさわしいルールを決めた。このルールを学年集会で周知し、徹底を求めた。

こづかい

おこづかいは、おみやげ代や三日目（浅草）での昼食代を含め、10,000円までとする。各自、当日までに予算を立てて、保護者に相談しておく。また、これ以外に東京分散時の交通費を別途持参するのは許可する。

服装

私服

【初日・二日目】

国会議事堂や分散学習での見学を考慮して、中学生としてふさわしい服装を心がける。

【三日目】

体験学習を考慮し、動きやすく派手でないものとする。

肌の露出の多いもの、ダメージジーンズ、丈の短いズボン、スカートは認めない。

靴下やズボンは、くるぶしがかくれるものとする。

アクセサリーなどの装飾品は付けない。

防寒具

肌寒いときに羽織れるもの。

靴

通学用の靴または、履き慣れた運動靴

持ちもの

必ず持っていくもの

【初日の持ち物】(学校で認められたナップサック、または両手が空くカバンに入れる)

- ・しおり ・筆記用具 ・雨具(折りたたみ傘、カッパ。両方ある方が望ましい)
- ・初日の弁当(捨てられる容器にする) ・ハンカチ、ティッシュ
- ・水筒(ビン、カン、ペットボトル不可) ・現金(財布に連絡先などを書いておく)
- ・生徒手帳 ・三日目の体験学習での持ち物 ・マスク

【事前に学校から送るもの】(大きいカバン一つにつめる)

- ・着替え(下着、靴下、二日目と三日目の服) ・ビニール袋(3、4枚)
 - ・就寝時の服(人前に出られるもの。体操服、学校指定のジャージはOK)
 - ・洗面用具(歯ブラシ、タオル2~3枚、タオル、バスタオル)
- 持ってきてもよいもの(初日に必要なものは、初日の持ち物に入れておく)
- ・常備薬(事前に指定の用紙に記入し、申請したもののみ) ・日焼け止め
 - ・時計、カメラ(個人の責任で管理できる、安価なもの)
 - ・間食(1、000円以内。ビン、カン、ガムは持ってこない)
 - ・レクリエーション用具(トランプ、UNOなど、みんなで遊べるもの)
 - ・帽子(サンバイザーは不可)

上記のことに関して、あらかじめプリントで周知するとともに、服装のあいまいな規定(派手でないもの・中学生らしいもの)に関しては、学年集会で学年議会主催の寸劇で実際にOKの服装と、認められない服装を示すことで、見解の統一を図った。

(3) 各実行委員の取り組み

修学旅行では、普段の生活と大きく異なるため、事前の準備が必要である。しかし、その準備は多岐にわたっている。そこで、実行委員を募り、自分の得意な分野で活躍し、自らの手で修学旅行を組み立てる意識を育てようと考えた。

東京分散実行委員

分散学習では、自分たちが考えたテーマに沿って目的地を考え、そこで学習した内容を模造紙やレポート用紙にまとめ、発表するという活動を予定していた。しかし、東京は本校の生徒にとっては見知らぬ土地であり、どんな場所があり、何を学べるのかを知っている生徒はとても少ない。

そこで、東京分散実行委員が、東京での見学地について調べ、それを冊子にして分散学習地を設定するためのモデルを示すことにした。インターネットや情報誌を用いて、色々なジャンルごとに候補地を選定した。中学生が興味を引きやすく、学習する場としても適当な見学場所となるよう、検討を重ねた。

・東京分散見学場所候補地一覧

番号	分散候補地	番号	分散候補地
1	逋信総合博物館ていぱーく	3 4	聖徳記念絵画館
2	ブリヂストン美術館	3 5	東京都江戸東京博物館
3	相田みつを美術館	3 6	相撲博物館
4	アド・ミュージアム東京	3 7	東京タワー
5	上野動物園	3 8	東京タワー水族館
6	上野の森美術館	3 9	トリックアートギャラリー
7	東京国立博物館	4 0	蠟人形館
8	東京国立美術館	4 1	ギネス世界記録博物館
9	国立科学博物館	4 2	国立博物館付属自然教育園
1 0	下町風俗資料館	4 3	東京都庭園美術館
1 1	国立西洋美術館	4 4	松岡美術館
1 2	東京都美術館	4 5	目黒寄生虫館
1 3	旧東京音楽学校奏楽堂	4 6	東京都水の科学館
1 4	一葉記念館	4 7	パナソニックセンター東京リスピア
1 5	第五福竜丸展示館	4 8	虹の下水道管
1 6	葛西臨海水族館	4 9	船の科学館
1 7	野球体育博物館	5 0	外務省外交史料館
1 8	がすてなーに ガスの科学館	5 1	森美術館
1 9	秩父宮記念スポーツ博物館 図書館	5 2	電力館
2 0	警察博物館	5 3	TEPIAプラザ
2 1	INAXギャラリー	5 4	たばこと塩の博物館
2 2	出光美術館	5 5	NHKスタジオパーク
2 3	明治大学博物館	5 6	明治神宮(宝物殿)
2 4	東京都現代美術館	5 7	損保ジャパン東郷青児美術館
2 5	地下鉄博物館	5 8	文化学園服飾博物館
2 6	科学技術館	5 9	古代オリエント博物館
2 7	日本銀行金融研究所貨幣資料館	6 0	トヨタオートサロンラックス東京
2 8	大倉集古館	6 1	消防博物館
2 9	NHK放送博物館	6 2	泉岳寺
3 0	お札と切手の博物館	6 3	国立新美術館
3 1	昭和館	6 4	N T Tインターコミュニケーションセンター
3 2	印刷博物館	6 5	新宿歴史博物館
3 3	東京水道歴史館		

見学場所	国立西洋美術館
東京駅から	JR上野駅下車(公園口出)
最寄りの駅から	徒歩1分
舞浜駅へ	上野駅→八丁堀(総都)→舞浜
開館時間	午前9:30～午後5:30
見学時間・料金	420円

解説
 ○国立西洋美術は1959(昭和34)年4月1日設立されました。
 ○現在では、絵画、彫刻、素描、版画、工芸などの分野にわたって2007年現在ではおよそ4,500点の作品を所蔵しています。
 ○1Fには、19世紀ホール、前庭彫刻があり、
 ○2Fには14世紀～19世紀の絵画や彫刻が展示されています。

見学場所	東京都美術館
東京駅から	JR「上野駅」
最寄りの駅から	公園口より徒歩7分
舞浜駅へ	JR上野駅→舞浜駅(JR東横線)
開館時間	9:00～17:00(入館は16:00まで) (休館日)第1月曜日(2010年10日程度)整備(休館)
見学時間・料金	1300円

解説
 大正15年東京府美術館として創設され、以来80余年にわたり各分野の美術団体の公募展会場として多くに集められてきました。
 創設25周年を記念して、全国の公立美術館100館が参加し、いままで見たことのない選りすぐりの名品を一室に公開します。

東京分散学習実行委員がまとめた、分散候補地の資料。
 絵を用いてわかりやすく書いたり、生徒が興味を引きやすいような内容にするなど、中学生の視点でわかりやすく紹介することを心がけている。

しおり作成実行委員



【しおり作成の様子】

修学旅行に生徒一人一人が持参する「しおり」を、生徒の手で作るように組織された。しおりは、持ち物や日程などが記載されており、修学旅行の準備段階から当日の様々な場面で手に取ることになる。修学旅行の生活を送る上で、重要な役割を果たすはずのしおりであるため、愛着を持ってほしいと考えた。そのため、生徒の手作りを重視し、多くのページを手書きで作成した。

また、表紙絵やカット絵を募集し、優秀作品を表彰することで、学年全員が関わることができるしおりを目指した。

ディズニーランド実行委員

修学旅行1日目に訪れる東京ディズニーランドは、多くの生徒が楽しみにしている場所である。ここでの体験は、修学旅行のねらいの一つである「学年・学級の仲間との和を深め、中学校生活の思い出づくりをする。」ための、大きな役割を果たしてくれるはずである。

また、修学旅行といえば、ディズニーランドが浮かぶほどのネームバリューをもっているため、事前活動での雰囲気



【壁新聞を眺める生徒】



【実行委員が作った壁新聞】

め、事前活動での雰囲気を高めるのに最も適していると考えた。

まず、ディズニーランド実行委員は、ディズニーランドを紹介する壁新聞を作成して、修学旅行に向けての雰囲気

気を大いに盛り上げた。

そして、ディズニーランドをめぐるモデルコースをつくり、当日の行程で時間を無駄なく使えるように工夫した。

バスレク実行委員



今年の修学旅行の日程は、バスでの移動時間が長い。バスの中での移動時間を、楽しめるものにするために、バスレク実行委員を立ち上げた。バスの車内では、シートベ

【バス内での注意を確認】 【バスレクの検討をする生徒】 ルトの着用が義務づけられているために、できることが限られている。その中でも、生徒が楽しめるものにするために、各クラスの特長を生かしたバスレクにするように検討した。基本的にはクラスごとに企画を立てたが、実行委員同士で情報を共有し合って、共通のバスレクを作ったり、自分のクラスの特性に合うように改善したりした。また、修学旅行前には、実行委員全員がリハーサルをして、当日に向けての課題を話し合い、改善すべき点を指摘し合うことで、質の高いバスレクを行えるように工夫した。

(4) 修学旅行説明会での取り組み

修学旅行に先立って、5月12日に修学旅行説明会を行った。例年では、修学旅行の概要について、教師が保護者に向けて説明するだけにとどまっていた。しかし、今年は生徒が中心となって決めたことを発表する場としても利用した。

服装についての規定の説明（学年議会より）

修学旅行における服装は、本校では「私服」を認めることとした。ただ、「中学生らしい服装」や「体験にふさわしい服装」というあいまいな表記のため、こういった服装が許可され、どんな服装が不適切なのか、はっきり伝える必要がある。そこで、その服装の基準を保護者も出席する修学旅行説明会で「ファッションショー」・「クイズ」形式で、実際に例を挙げて説明することにした。



【生徒主催のファッションショー】



【正しい服装はどちらか？クイズ】

「この服装は、ズボンの丈が足りないため、不可です。」などと、実際に服装を着て、具体的に認められないポイントを伝えることによって、生徒も保護者も共通理解を深めることができ、当日の服装違反者を減らすことができた。

しおり表紙絵の表彰（しおり実行委員会より）



【しおり絵表彰の様子】

しおりの表紙絵は、全学年から募集し、しおり実行委員が審査をして最優秀作品を選んで完成した。その表彰式を修学旅行説明会ですること、普段の学年集会よりも厳粛な雰囲気で行うことができた。

(5) 分散学習の計画作成

班編制

班編制は、分散学習実行委員の案と学年全体の意見を総合して決めた。その結果、男女混合での各クラス6班の6～7人での編制とした。クラスの代表であり、学年議会に出席する議員は、同じ班にならないように工夫するように要請した。班の中の係とその役割については、以下の通り。

係名	事前の役割	当日の役割	事後の役割
班長 (1名)	<ul style="list-style-type: none"> 班活動の中心となって意見をまとめたり、必要な書類に記入したりする。 分散学習のテーマを決める話合いの中心となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班活動の中心となり、行動面や生活面での班の管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ活動の中心となり、スピーチ原稿や冊子原稿の確認をする。
副班長 (1名)	<ul style="list-style-type: none"> 班長の補佐をして、班活動の中心的な役割をする。 班に配付された資料の管理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 班に配付された資料をもとに、班活動での中心としてに役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ活動で使う写真の選定を行う。
準備 (2名)	<ul style="list-style-type: none"> 分散学習における移動手段の確認をする。 分散計画に沿ったタイムテーブルを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムテーブルに沿った行動をするよう、経路や時間を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ活動のスピーチ原稿を作成する。
学習 (2～3名)	<ul style="list-style-type: none"> 分散学習のテーマに沿った学習内容を決める。 分散学習に必要な資料集めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 分散学習のまとめに必要な資料を探す。 まとめで使う写真撮影をする。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ活動の冊子原稿を作成する。

タイムテーブルの作成

東京分散学習のタイムテーブルの作成は、各クラスで班ごとに分かれて行った。前ページの役割分担に合わせて仕事が割り振られ、一人一人が手分けしてタイムテーブルの作成をした。

まず、見学地を班全員が相談して決めた。修学旅行後にクラスの人たちを前に発表することがあらかじめ決まっていたので、自分たちが興味のあるものかつ、発表に適しているものを選ぶために、真剣に資料を調べたり話し合ったりする姿が見られた。見学地を決める際には、どのような点を重点的に調べるのが明らかにすることも重視し、その見学地を訪れるテーマを考えた。男女で意見の相違がうまれることもあり、なかなかまとまらない班もあったが、班長が中心となって、話し合いを深めることによって、班としてどのような発表をしたいのか真剣に考え、意見をまとめることができた。

見学地が決まったあと、見学地までの行き方を調べ、どのようなルートで向かうと効率よく回れるのか考えながらタイムテーブルの作成を行った。ほとんどの生徒は東京の町を歩いたことがなく、班員全員が安全に移動、見学ができるように手持ちの資料で調べたり、インターネットを用いて最新の情報を確認したりしてタイムテーブルを完成させることができた。



【東京分散のタイムテーブルを作ろう！！】

順番	見学先名	入場料	学習テーマ (目的)
1	ギネス世界記録博物館	300円	人間の限界を感じて、見て、触れて、体験してくる!!!!
2	NHKスタジオパーク	無料	アナウンサー体験やアフレコ体験を通してテレビの裏側を知る!!!!

【見学地の選定と、そのテーマ】

時間	駅名・見学地名	所用時間
11:50	東京駅	
	↓ JR 山手線(品川方面行) 150円	6分
12:00	浜松町駅	
	↓ 徒歩	15分
12:15 13:10	① ギネス世界記録博物館 500円 300円	(35分) 15分
	↓ 徒歩	
13:25	浜松町駅	
	↓ JR 山手線 190円	14分
13:40	渋谷	
	↓ 徒歩	11分
13:55 14:26	② NHKスタジオパーク 無料	(25分) 11分
	↓ 徒歩	
14:30 14:39	渋谷	
	↓ 東京メトロ有楽町線 清澄6丁目行	
14:45 14:50	永田町	
	↓ 東京メトロ有楽町線 230円	
15:06 15:15	新千場	
	↓ JR 有楽線快速 藤沢行 150円	
15:21 15:30	舞浜駅	

【東京分散タイムテーブル】

【班別学習見学地の一覧】

組	班	見学地（見学時間）	組	班	見学地（見学時間）
1	1	東京タワー展望台(12:10～12:50) 東京タワー水族館(13:00～14:20)	4	1	上野動物園(12:10～13:10) 上野公園(13:20～14:20)
1	2	上野動物園(12:10～14:20)	4	2	ギネス世界記録博物館(12:10～13:00) 東京タワー水族館(13:10～14:30)
1	3	上野動物園(12:10～13:10) 野球体育博物館(13:50～14:30)	4	3	NHKスタジオパーク(12:20～13:20) ルミネ(13:40～14:40)
1	4	東京タワー展望台(12:20～13:00) 国立科学博物館(13:30～14:20)	4	4	東京タワー水族館(12:20～13:10) 竹下通り(13:40～14:20)
1	5	東京タワ - 展望台(12:10～13:10) ギネス博物館(13:10～14:20)	4	5	上野動物園(12:10～13:10) 国立科学博物館(13:30～14:20)
1	6	ギネス世界記録博物館(12:20～12:50) 渋谷(13:20～14:20)	4	6	電力館(12:10～13:20) 渋谷(13:30～14:20)
2	1	竹下通り(12:10～13:30) 野球体育博物館(14:00～14:30)	5	1	野球体育博物館(12:10～12:40) 竹下通り(13:10～14:20)
2	2	葛西臨海公園水族館(12:10～15:00)	5	2	野球体育博物館(12:10～12:40) 竹下通り(13:10～14:20)
2	3	上野動物園(12:10～13:10) 国立科学博物館(13:40～14:40)	5	3	NHKスタジオパーク(12:30～13:30) スタジオアルタ(13:50～14:30)
2	4	東京タワー展望台(12:20～13:00) ギネス世界記録博物館(13:10～14:10)	5	4	上野動物園(12:10～12:40) 浅草(13:00～14:30)
2	5	ギネス世界記録博物館(12:10～13:10)	5	5	上野動物園(12:10～13:20) 上野公園(13:30～14:30)
2	6	上野の森美術館(12:10～14:20)	5	6	NHKスタジオパーク(12:10～12:40) 竹下通り(13:00～14:10)
3	1	上野動物園(12:10～13:00) 上野公園(13:10～14:30)	6	1	ギネス世界記録博物館(12:10～12:40) 渋谷(13:10～14:20)
3	2	東京タワー展望台(12:20～13:10) ギネス世界記録博物館(13:20～14:30)	6	2	東京タワー展望台(12:10～13:00) ギネス世界記録博物館13:10～14:20
3	3	ギネス世界記録博物館(12:15～13:10) NHKスタジオパーク(13:55～14:20)	6	3	科学技術館(12:10～13:00) 竹下通り(13:20～14:20)
3	4	ギネス世界記録博物館(12:10～13:10) フジテレビ(14:10～14:40)	6	4	ギネス世界記録博物館(12:10～13:00) 竹下通り(13:30～13:00)
3	5	東京タワー展望台(12:10～13:20) フジテレビ(13:50～14:40)	6	5	NHKスタジオパーク(12:20～13:10) 竹下通り(13:30～14:20)
3	6	上野動物園(12:20～14:30)	6	6	上野動物園(12:10～12:50) 竹下通り(13:20～14:20)

6 当日の取り組み、事後の活動の様子

(1) 当日の動き

1 日目

出発式

前日のオリエンテーションの成果もあり、忘れ物をした生徒や遅刻者はいなかった。名古屋駅での出発式も、静かに行うことができた。

新幹線乗車

新幹線の停車時間は非常に短かったが、整列指導の成果が出て、全員で協力して素早く乗り込むことができた。

新幹線内

新幹線では、級友と楽しく話をしたりカードゲームをしたりして、親ぼくを深めることができた。昼食も車内でとり、出たゴミに関しては班員立ちで協力してまとめ、きれいな車内を保つことができた。東京駅が近づくと降



【新幹線内でくつろぐ生徒】

車準備を自発的に始め、忘れ物や遅れる者もなく、無事下車することができた。

東京分散

分散班に分かれて、学習テーマに沿って分散学習を行った。タイムテーブルをあらかじめ綿密に立てていたことから、どの班も予定通りに回ることができていた。また、係の仕事を全うしようと努める生徒も多く、滞りなく分散学習を終えることができた。

【生徒作文】 班での役割について

私はとても不安でした。やるといったものの、初日は班長の仕事が多かったからです。自分でも「大丈夫かな」と思っていました。でも、みんなも協力してくれて一日を無事に終えることができました。班のみんなにしたら頼りない班長だっただと思いますが、おかげで2日目3日目も仲良く過ごすことができ、うれしかったし、いい思い出になりました。この3日間で絆を深めることができましたと思います。



【東京駅での集合の様子】

【生徒作文】 分散見学地での様子

東京分散で水族館を訪れました。そこで、たくさんの中型の魚と泳ぐサメの水槽を見ました。ぼくはこれらの魚が食べられないか心配でした。でも、一緒に行った友人がこのようなした方が中型の魚の緊張感が増して普段よりも長生きすると教えてくれました。みんなと一緒に分散学習をすることで、一人で行くだけでは味わえない楽しさを知ることができました。



【上野動物園に行こう！！】

【生徒作文】 分散で学んだこと

子どもだけで行動することはもちろん、今回が初めてなので、迷子になってしまうことがとても不安でした。しかし、いざ分散となると、みんなで協力して目的地まで到着し、時間通りに舞浜に行くことができました。ぼくはみんなで協力すれば、大変なことでも乗り越えられるということを実感しました。



【見学地に向かう生徒】

ディズニーランド

ディズニーランドは、クラスの単位を取り払って、生徒同士で自由な班を組み、会場内を回った。ディズニーランド実行委員が、作成した資料を事前にみて雰囲気高め、見学する順序をあらかじめ考えてきたこともあって、どの生徒もスムーズにアトラクションをめぐることに集まる場所が暗く、わかりにくい場所であったにもかかわらず、ほとんどの生徒が遅れることなく集まることができた。この見学地での目標「修学旅行を楽しむ」という目標を十分に達成するとともに、担当の実行委員への感謝の気持ちを抱いていたようである。

【生徒作文】 ディズニーランド実行委員より

私は修学旅行実行委員としてディズニーランドについて色々調べました。その中で担当したのは「食べ歩き」についてです。全部のショップやレストランの中から「これならみんなが行きたいだろう」と思う場所をセレクトして、マップを作って掲示しました。とても大変な作業でしたが、いいものを作るためにみんなで協力しました。

当日、一緒に回った友だちから、「いいお店だったね」と言われて、うれしかったです。



【ディズニーランドの様子】

ホテル

2～3人部屋に分かれて、洋室での宿泊となった。ディズニーランドの移動からすぐに就寝時間となったが、入浴や就寝準備を手早くすませ、大きな混乱もなく過ごすことができた。ホテル側も修学旅行生に慣れており、宿泊客とのトラブルもなかった。翌朝にはバイキング形式の食事ということもあり、級友と和やかに仲良く過ごせていたようである。



【ホテルでの食事の様子】

2 日目

国会議事堂見学

新型インフルエンザの影響もあり、事前にマスクを配布しての見学であったが、大きな混乱もなく、無事見学を終えることができた。社会の授業やテレビの番組でしか見たことのない国会の内部を初めて見学し、その大きさや厳かな雰囲気によって圧倒された生徒も多く、見学する価値のある場所であった。

また、修学旅行前のけがが悪化し、車いすの必要な生徒もいたが、国会内で貸してもらい無事見学を済ませることができた。

浅草見学

ディズニーランドを回った班と同じメンバーでの見学とした。この場所では、昼食も兼ねているので、仲見世通りの店に入って、各自で思い思いの昼食を取り、いい体験ができたようである。前日のディズニーランドとは違った雰囲気を味わえ、おみやげを購入したり、浅草寺等を見学したりして、前日以上に級友との親ぼくを深めることができた。



【浅草見学の様子】

水上バスでの移動

伊豆への移動を前に、水上バスでの川下りを体験した。貸し切りの水上バスということもあり、終始和やかな雰囲気でも過ごすことができた。甲板に立って、友人たちを楽しく会話したり、川岸の景色を十分に楽しんだり、なかなか味わえない体験を堪能することができた。



【水上バスでの様子】

ペンションでの分宿

東京から伊豆までは、バスでの移動となった。バス内では、バスレクや添乗員の方のお話などで盛り上がった。

伊豆では、各クラスで男女が分かれて、計12か所でのペンションの分宿を経験した。ペンションでは、独自の夕食が振る舞われ、ふれあいタイムではペンションのオーナーの方とゲームをしたり話をする中で、分散学習やディズニーランドでなかなか話せなかった級友とも絆きずなを深めることができたようである。

【生徒作文】 ペンションでの生活

わたしは、この修学旅行で素晴らしい思い出ができました。それはペンションでの生活です。

わたしは修学旅行に行く前から、ペンションをきっかけにして「クラスの女子の絆を深めよう」と計画を立てていました。せっかく一緒のクラスになったのに、あまり話したことの無い人ともいっぱい話したからです。

当日は、オーナーさんのゲームを積極的に楽しんで、盛り上がった結果、みんなの本音やこれからの意気込みを聞けました。みんなの笑顔がいっぱい見られて、サイコーの修学旅行になったと思います。



【ペンションでのゲームの様子】



【オーナーさんの出し物で楽しむ生徒】



【ペンションでくつろぐ生徒】

3日目

伊豆分散体験学習

伊豆では、その土地で行うことのできる体験学習を行った。全部で9つある体験内容の中から、自分の希望する体験を選んだ。普段の生活では、なかなか体験できないことばかりであったので、楽しみにしていた生徒も多かった。あいにくの空模様であったが、雨具をあらかじめ用意したり、体験先が雨天の場合を考えていてくれた、全ての体験内容を予定通りに行うことができた。

体験学習内容一覧

番号	体験内容	番号	体験内容
1	スノーケリングと海の生物講習体験	6	ガラス細工の制作体験
2	遊覧船での船釣り体験	7	手作りオルゴール体験
3	硬式テニス体験	8	銀粘土によるリング及び、ペンダント トップ作り体験
4	動物飼育体験		
5	シャボテン栽培体験	9	甘夏みかん狩り体験

【生徒作文】 動物飼育の思い出

3日目の伊豆体験学習では、動物飼育を体験しました。はじめは手乗りリスザルのエサやりをしました。エサを自分の指につけて近づけると、小さい手でつかんでなめてくれて、すごくかわいかったです。その後はリスザルの群れが移動するところを見ました。

次はレアとマーラーです。レアは凶暴なので見ているだけです。マーラーはカピバラを小さくした感じの動物でした。一部のマーラーは手渡しでエサをやれました。はじめは警戒して食べてくれませんでした。最後には食べてくれてうれしかったです。

普段はできないことを体験できて、とても楽しかったです。



【動物飼育の様子】

【生徒作文】 甘夏みかん狩りの思い出

わたしは、伊豆体験学習で甘夏狩りに行きました。山を登るのは、結構険しくて、少し雨も降っていたので、疲れて大変でした。

でも到着すると周辺には甘夏がいっぱい下った木がたくさんあって、景色もきれいでした。食べてみると、予想以上に甘かったです。皮も食べてみると少し酸っぱかったけどおいしかったです。

苦労した後の果物の味は最高でした。また食べてみたいと思います。



【甘夏みかん狩り】

バスレク

伊豆を発ってから名古屋まで、バスでの移動となった。所要時間は5時間ほどということもあり、車内を盛り上げるバスレクは不可欠であった。

ただ、バスに乗車している間はシートベルトを着用しなければならないために、全員が進行方向を向いているという、たいへん難しい状況であったにもかかわらず、どのクラスのバスレクも大変盛り上がった。これは、生徒主演の自作ビデオを上映したり、ボードで問題を最前列の司会者が示せるようなクイズをしたりと、バスレク実行委員が事前の準備を怠らず、どうしたら全員が楽しめるのか考えて作り上げた成果である。



【バスレクの様子】

(2) 事後の活動（発表会にむけて）

修学旅行1日目の東京分散学習で学んだ成果を発表する場を事後の活動とした。発表会に向けて、まず発表原稿を作った。また、その際の資料として、分散学習中に撮った写真を印刷し

て、聴衆に示すことにした。資料とスピーチで、どのような発表にしたら自分たちが学んできたことをわかりやすく伝えられるか、各班で話し合った。

また発表会は、各クラスの教室で行うため、他のクラスの生徒は発表を見ることができない。他のクラスの人にも東京分散で得た成果を発表するため、新聞形式で各班1枚レポートを書いた。それを印刷して冊子形式にすることで、各クラスに配布し、だれでも閲覧できるようにした。

発表会準備の様子

各班で、役割分担をしていたためか、十分に議論して発表への準備をしていた。また、事前にどんな点を中心に発表するのか考えていたため、発表原稿やレポートの作成に困る班は少なかった。

また、自分の役割を果たすとともに、他の係の人にアドバイスをしたり、してもらったりしながら、よりよい発表資料ができるように、各班で協力していた。

発表会当日

事前に話し合っ、しっかりした発表原稿や資料を作ったことによって、多くの生徒が自信をもって発表していた。

また、発表を聞く際に、「聞き取りシート」への記入を求めた。「わかりやすさ」や「聞きとりやすさ」といった項目ごとに評価する必要があるため、真剣に話を聞くための一助になっていた。発表する側も、評価されているという意識をもつとともに、自分の体験してきたことをみんなに紹介したいという意識が強く、有意義な会となった。



【発表会当日の様子】

7 事後の生徒の変容

修学旅行を通じて自分たちの力で準備し、協力しあうことを学んだため、生徒同士の絆が深まった様子だった。たとえば、修学旅行後に行われた球技大会では、男女そろって声を出して応援したり、クラスの応援歌を作って雰囲気盛り上げたりするなど、行事を楽しむとともに、仲間たちを大事にする気持ちがうかがえた。

また、東京分散学習で自分の役割を果たすことで、周りの人を助けることができるということを実感することができた。この経験は、下級生に良い手本を示すといった形で表れてきた。たとえば、部活動では最上級生として練習に熱を入れるとともに、下級生にアドバイスをしたり注意を促したりすることで、学校全体が活性化してきている。たとえば、ソフトボール部では、市民スポーツ祭準優勝、水泳部は全国大会出場と、多くの部活で高い成績を収めることができた。

これまでの取り組みを生かして、2学期からは「生きる」をテーマに、総合学習で自分の生き方について学んでいる。

終わりに

修学旅行から帰ってから、日記などで「今まであまり話したことのなかった人とも、たくさん話をすることができた。」とか「修学旅行は一生の思い出になった。もう一度このメンバーで旅行に行きたい。」という言葉、色々な場面で見ることができた。このことから、「学年、学級の仲間との和を深め、中学校生活の思い出づくりをする。」という修学旅行の目標は、十分に達成できたと考えられる。生徒が立てた、「笑 (show) Time」というスローガンどおりに、笑顔の絶えない、生徒一人一人にもスポットを当てることができた、素晴らしい活動になった。

東京分散では、各班で一人一人が自分の役割をこなしながら、学習テーマに沿った候補地を見学し、その成果を発表するという活動から、自分で調べて新たな発見をする楽しさを実感したようである。また、生徒にとっては、見知らぬ土地を自分たちで調べた行動計画に沿って見学することで、事前の準備の大切さを知るとともに、突発的なアクシデントの際にも、仲間と協力して解決したことで、社会生活に向けての自信を深めたようである。何より、一緒に調べ、行動し、事後の活動をする中で、級友との絆がいっそう深まったことが、今回の活動の成果であるといえるだろう。また、事後の活動において自分たちが学んできたことを発表できる機会を設けたことは、当日の活動でも「他の班にはない発見をしよう」という意識を高めることができた。それは、探求心を育てることにつながり、ただ現地を訪れるだけにとどまらない分散学習になった。発表活動当日も、自分たちが学んできたことを他の生徒に伝えられる喜びを感じていたようで、実に生き生きとした発表となった。

また、各実行委員の活動を通じて、自分たちの手で一つの行事を作り上げたことに大きな喜びを感じている生徒も多かった。また、実行委員のおかげで楽しい3日間を送ることができたことに対する感謝の気持ちも抱いたようであり、そんな感謝の気持ちを作文などで確認した実行委員は、さらに大きな喜びを感じることができた。

仲間と協力し、主体的に活動できる修学旅行を模索してきた。これは、一つの行事だけでなしえたものとは思わない。1年の時から「生きる」という共通テーマで総合学習を行い、環境学習や職場体験学習を通じて、社会で生きる力を養い、自分の周りに目を向ける活動を行うことによって、その下地はできていたのであろう。それは、この3年間同じ教員スタッフで、共通の思いを抱いて指導してきたからこそである。折に触れて教員同士で話し合いを深めることで、共通理解を得ることができ、指導方針がぶれることなくここまでやって来られたたまものであると考えられる。

これまでの活動を、学校という過ごし慣れた場所を離れて、生徒自身の手で成功に導くことができたのは、生徒たちの大きな自信となった。その自信を自らの進路に向けて育てていけるよう、今後の総合学習や各行事での活動を増やしていきたいと思う。

今後の活動でも、修学旅行をの経験を生かし、仲間と協力して主体的に行動できるような生徒の育成を目指したい。